

第5章 施策の方向

第1節 施策の体系

◆施策の体系

基本理念	基本目標	基本施策	個別施策
「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」の成田のまちづくり	1 賑わいの創出と地域経済の活性化	(1)賑わいのあるまちづくりの推進	①中心市街地の活性化 ②駅周辺の賑わいの創出 ③商店街の振興
		(2)市民ニーズに応える産業の育成	①生活支援型産業の振興 ②文化創造型産業の振興 ③スマートシティの形成
	2 空港を活用した基幹産業の育成	(1)産業集積の推進	①国際物流・産業集積基地としての充実 ②工業の振興 ③企業誘致活動等の推進 ④新産業の育成
		(2)空港関連産業の振興	①空港関連産業の育成 ②空港活用の促進
	3 観光集客による多様な地域産業の振興	(1)魅力的な観光地づくりの推進	①観光拠点の整備と回遊性の確保 ②観光客誘致活動の推進 ③観光情報の提供 ④集客イベントや集客プログラムの充実 ⑤市ぐるみの「おもてなし」の展開 ⑥東京オリンピックに関連した商工業の振興
		(2)観光関連産業の振興	①観光産業の育成 ②観光による地域産業の活性化 ③コンベンションの推進
		(3)地域資源を活かした産業の振興	①成田ブランドの育成・地場産業の振興 ②6次産業化の推進
	4 内発型の商工業振興体制の充実	(1)総合的な産業振興体制の確立	①産業支援体制の充実 ②シティプロモーションの推進 ③卸売市場の充実
		(2)中小企業の活性化支援	①中小企業の経営支援 ②起業・創業の支援 ③公共調達(官公需)における中小企業の活用 ④商工団体の活動に対する支援
		(3)人材育成と雇用・就業の支援	①人材の育成 ②雇用・就業の促進 ③働きやすい環境づくり

第2節 施策の展開

1 賑わいの創出と地域経済の活性化

(1)賑わいのあるまちづくりの推進

国際観光文化都市、首都圏の業務核都市にふさわしい都市機能と華やぎのある中心市街地づくり、地域生活を支える各商店街の活性化により、市民や観光客に親しまれる魅力あるまちづくりを進めます。

①中心市街地の活性化

JR・京成成田駅中央口地区や表参道を中心とする本市の中心市街地は、中心市街地活性化基本計画に基づき、商工団体等と連携して、商業事業者や地域団体等とともに、一体的な活性化を進めています。また、買い物環境の向上を目指し、これまで進めてきた駐車場の確保やセットバック事業による歩道整備などとあわせた商業の活性化を推進します。

②駅周辺の賑わいの創出

駅周辺については、各地域の生活拠点として、便利で魅力ある買い物環境づくりを進めるため、複数の商店街が共同実施する大規模イベント事業や、商工団体の事業と連携した集客事業の支援を通じて、賑わいの創出を進めます。

医療系大学の立地が予定されている公津の杜駅周辺については、学生や教員で賑わうまちづくりを進めるため、関連事業の需要把握、事業化セミナー開催等の支援など、関連ビジネスの振興を図っていきます。

③商店街の振興

市民の生活に身近な商店街について、装飾街路灯などによる華やぎの演出、商業活性化のためのイベント実施、商店会スタンプ事業の推進、ユニバーサルデザイン※化の促進など、誰もが地元での買い物や交流に参加できるような環境づくりを進めます。

また、空き店舗を地域コミュニティの活性化や、起業支援の場に活かすなど、地域課題の解決や新たな市民ニーズに対応する商店街づくりを支援していきます。

※ユニバーサルデザイン…文化・言語・国籍の違いのほか、年齢や障害の有無にかかわらず、はじめからすべての人にとって使いやすいように意図してつくられた製品・情報・環境のデザインのこと。

(2) 市民ニーズに応える産業の育成

市民の多様なライフスタイル、高齢者や障がい者、子育て中の市民のニーズに寄り添う生活支援型産業、国際都市にふさわしい教育・文化を支える文化創造型産業を、市民（消費者）、事業者とともに育みます。

①生活支援型産業の振興

少子・高齢化する社会に対応し、ヘルスケア産業、介護・福祉・子育て支援サービスの育成、安全・安心な住宅づくりをはじめ、市民ニーズにきめ細かく対応するサービス産業を振興し、誰もが安心して住み続けることのできるまちづくりを進めます。その中で、地域の中で互いに課題を解決しあうようなコミュニティビジネス^{※1}、ソーシャルビジネス^{※2}といった地域住民を主体とするビジネスの育成、事業者の参入を推進します。

②文化創造型産業の振興

北総の中核的な都市として住民の生活の質を高めていくとともに、国際観光都市にふさわしい文化をつくっていくため、教育関連産業、文化・教養サービス業、ギャラリーをはじめとする様々なアート関連産業などを振興していきます。

③スマートシティ^{※3}の形成

太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーへの転換、ごみの減少・資源の再利用・再生利用を進め、環境ビジネスや新エネルギー産業の振興など、地球環境と健康にやさしい都市づくりを推進します。

地球温暖化防止対策などの環境に配慮した経営を行う事業者に対し、中小企業資金融資制度（環境経営支援資金）などにより支援します。

※1 コミュニティビジネス…地域が抱える課題を、地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業のこと。

※2 ソーシャルビジネス…コミュニティビジネスとほぼ同義。社会性、事業性、革新性を以て特徴とし、地域や国境を越えた事業も生まれている。

※3 スマートシティ…IT や環境技術などの先端技術を駆使して街全体の電力の有効利用を図る、省資源化を徹底した環境配慮型都市のこと。

2 空港を活用した基幹産業の育成

(1) 産業集積の推進

空港周辺地域における企業立地や産業集積等を推進するとともに、整備が進む圏央道インターチェンジ、中心市街地の機能も活かして産業集積を一層進め、物流産業をはじめ、世界とつながる交流拠点にふさわしい基幹産業を育成していきます。

① 国際物流・産業集積基地としての充実

本市の産業を特徴づける国際物流拠点としての機能を拡充・高度化していくため、「成田国際空港周辺土地利用ビジョン」に基づく空港周辺での土地利用の推進、インターチェンジ周辺への産業集積エリアの形成を進めます。また、空港やインターチェンジ周辺、中心市街地を結ぶ業務ネットワークの形成を促進するなど、市内各地域の特性に応じた適切な産業配置を進め、業務核都市として、全市域で産業集積を受け止めていきます。

市場ニーズへの対応力の高い産業を育むためには、原材料調達から生産、消費までの流通全体の最適化を図ることが重要となり、物流産業の高度化（専門化、マーケティングや在庫管理、一次加工機能などを含む総合的な機能の向上）が求められています。本市も、時代の要請に応える国際物流都市づくりを目指し、必要な基盤整備を検討していくとともに、業種間連携を促進するなど、物流産業クラスターの形成を促進します。

② 工業の振興

工業についても、空陸の交通ネットワークと物流機能に恵まれている本市の立地優位性を活かし、集積を進めていきます。必要な生産基盤の整備を進めるとともに、各種産業支援機関と連携しながら、既存事業の高度化・複合化、新規事業の開発を促進します。また、市内4か所の工業団地からなる連絡協議会の運営支援を通じて、企業間の交流、企業と地域との関係づくり、企業活動の円滑化に関わる共同事業などを促進します。

③ 企業誘致活動等の推進

産業集積を進めるため、企業誘致制度の利用を促進し、今後とも企業誘致に力を入れます。既存の工業団地は分譲を完了していますが、「市街化調整区域における土地利用基準及び地区計画運用基準」などを活用し、空港周辺の土地利用の推進を図るとともに遊休地・施設情報の提供に努めます。また、立地後の企業活動や従業員の生活についての相談を受け付けるなど、立地企業へのフォローアップ活動に力を入れます。

これらを総合的に進めるため、市と民間の連携により、企業向けワンストップ相談窓口を運営し、利用を促進していきます。

④ 新産業の育成

スポーツを通じて新たな旅行の魅力を創り出すスポーツツーリズム、国際物流関連産業、観光産業、医療産業など、空港の立地を活かした新たな産業の育成を進めます。

(2) 空港関連産業の振興

空港関連産業は、国際物流都市としての本市の産業の核の一つとして、空港機能の支援に関わる各種ビジネスを振興するとともに、空港を活用した地元産業のPRや商品販売を促進するなどの振興を図ります。

空港は、様々な業務の発生源、地元のPRや商品販売、観光誘客のための重要な拠点であると同時に、様々な専門サービス、質の高いおもてなしサービスを育む産業育成、人材育成拠点でもあります。この多様な機能を総合的に活かして関連産業の集積を進め、本市ならではの「空港産業クラスター」の拡充、高度化を進めます。

① 空港関連産業の育成

成田国際空港の機能を支える各種サービス、施設の整備やメンテナンス、機材提供・整備、技術提供、備品・消耗品・食材等の提供、流通サービス、情報処理や各種業務支援サービスなど、多岐にわたる関連事業の供給力を高め、空港機能の向上と、日本を代表する玄関口としての質の高い交流拠点づくりに貢献しながら、市内に多様な業種・職種の事業所や人材を育み、裾野の広い産業群を形成して育んでいきます。

② 空港活用の促進

空港を、本市産業のPR、商品販売の場として積極的に活用するとともに、空港を介して国内外の人、物、情報等を市内に誘導し、本市の経済活性化を図ります。

また、空港自体の観光魅力に着目し、周辺の関連施設とともに、本市ならではの産業観光の推進拠点の一つとしていきます。



成田国際空港内ショッピングエリア

3 観光集客による多様な地域産業の振興

(1) 魅力的な観光地づくりの推進

成田国際空港、成田山新勝寺という2大資源を核に、観光拠点の形成とネットワーク化、観光資源の充実、市ぐるみで来訪者をもてなす体制をつくるとともに、これまで進めてきた観光客誘致活動や観光情報提供を一層積極的に進め、国際的な観光都市にふさわしいまちづくりを進めます。

① 観光拠点の整備と回遊性の確保

成田国際空港、成田山新勝寺周辺の魅力向上、集客・宿泊機能の拡充を進めるとともに、甚兵衛公園、印旛沼、利根川をはじめ、多様な観光拠点を形成して集客を促します。

各観光拠点の利用促進を図るため、成田国際空港、主要駅、インターチェンジ等の玄関口機能を高め、花の回廊づくり、観光拠点や商店街拠点をめぐるルート開発などを進め、市内の循環性を高めていきます。また、中心市街地や商店街の整備を進めてまちなかの回遊性を高め、散策する観光客の商店街への来訪及び消費を促進します。

② 観光客誘致活動の推進

国内外での観光客誘致活動、観光宣伝キャンペーンを、ターゲット層のニーズに即して効果的に実施するとともに、空港利用者の市内への誘導を強化します。

特に、「運気上昇のまち 成田」を国内外にアピールすることによる新たな来訪需要の喚起、フィルムコミッション活動による市内地域のPRとロケ地観光の推進など、通年型の観光地づくりに向けて戦略的な誘致活動を展開します。

③ 観光情報の提供

本市の魅力を伝え、来訪時の行動を支援する観光情報の整備・提供を進めます。

地元事業者や市民によるご当地情報の提供、店や商品を紹介する既存パンフレット類の更新を進めるなど、魅力的な情報の整備を進めるとともに、多言語対応の地図やパンフレット、インターネットを活用した情報提供など、多様な情報媒体を確保し、わかりやすい提供が進むよう図ります。

また、観光案内所機能の充実、標識・案内板等のサイン整備、ICT※を活用したナビゲーション機能の充実、観光ガイド活動の振興などにより来訪者の回遊性、滞留性を高め、市内での消費を促進します。

※ ICT…Information and Communication Technology の略。コンピュータやインターネットに関連する情報通信技術のこと。

④ 集客イベントや集客プログラムの充実

産業イベントは、生産物の有効な販売機会であるだけでなく、地域の産業を事業者が直接アピールし、消費者と交流する機会としても重要です。表参道沿いの商店の魅力をアピールする「うなぎ祭り」、伝統工芸や農産物など、本市の産業を紹介する「成田市産業まつり」、大栄地区において開催される「大栄ふるさとふれあいまつり」、下総地区において開催される「下総ふるさとふれあい納涼まつり」、商店街イベントなど、市内の商工関係イベントのPRや運営を支援します。

また、空港利用者が日本最後の夜を楽しむラストナイトツアー、航空機乗り継ぎの待ち時間を活用して現地の観光を楽しむトランジットツアー、会議後の楽しみを提供するアフターコンベンションや、スポーツを通じて新たな旅行の魅力を創り出すスポーツツーリズムなど、本市ならではの観光プログラムを育成し、集客機会、消費機会の拡大を図ります。

⑤ 市ぐるみの「おもてなし」の展開

観光地としての安全対策、環境保全対策、ユニバーサルデザイン化、医療や生活支援サービスをはじめ、様々な分野での外国語対応の推進など、国際観光地にふさわしいまちづくりを推進します。また、本市のPR情報の充実、沿道の美化や景観づくり、ガイド、通訳等の活動やあいさつ運動などを通じて、事業者、市民、行政が一体となって来訪者をあたたかく迎えるまちづくりを進めます。

そのため、観光産業を担う専門人材をはじめ、ガイドボランティアや通訳ボランティアなど、国際観光地としてのおもてなしを担う幅広い人材を育成していきます。

⑥ 東京オリンピックに関連した商工業の振興

本市は、日本の玄関口として、平成32年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、周辺都市と連携しながら適切な受入準備を進め、これに伴って発生する様々な交流に対応し、本市への来訪の拡大を図っていきます。

また、スポーツツーリズムを育成する取り組みを支援するなど、これを機にスポーツ交流の活性化を図ります。



成田山新勝寺

(2) 観光関連産業の振興

本市は、関東を代表する参詣地として観光関連産業を育み、発展してきました。そして、現在は、国際空港とその周辺に、新たな集積がみられます。今後とも、それを両輪に、国際観光都市として質の高い観光産業を育成するとともに、多様な地域産業との結びつきを強めて、本市の観光魅力の向上と、観光関連産業の活性化を進めていきます。

① 観光産業の育成

国際観光地として集客力を高め、滞在型の観光地づくりを進める中で、宿泊業、飲食業、土産物の製造・販売業、レジャー産業をはじめ、運輸業、小売業、各種関連サービス業等の関連産業を育成します。

② 観光による地域産業の活性化

本市の市域には、農業や製造業、伝統工芸から先端産業まで、様々な産業の広がりがあります。これらを観光と結びつけ、多様な事業者の参加によって、名産品や土産の開発、体験型観光などを充実し、本市の観光の魅力化を図っていきます。これにより、来訪者の回遊性・滞在性を高めて市内での消費機会を拡大し、観光産業とその他の産業分野の相乗的な発展を図り、地域経済全体への波及を高めます。

③ コンベンションの推進

国際交流拠点としての資質を活かした滞在型の観光地づくりを進めるとともに、市内産業の高度化に資する情報や人材の交流を促進するため、県と連携してコンベンションの推進を図るとともに、民間事業者を中心とするMICE*の誘致・開催を支援していきます。



成田祇園祭

*MICE…Meeting(会議・研修・セミナー)、Incentive tour(報奨・招待旅行)、Convention または Conference(大会・学会・国際会議)、Exhibition(展示会)の略

(3) 地域資源を活かした産業の振興

経済のグローバル化が進展する中で、地域特性を活かした付加価値の高い地域ブランドづくりに取り組むことは、伝統工芸や地場産業の振興に大きな役割を果たします。

農業は、市民に新鮮な食材を提供するだけでなく、食品産業を支える基礎であるとともに、農業体験や美しい田園環境の保全を通じて観光地としての魅力を支えます。

各産業の多様な機能を引き出し、産業間の連携を高めながら、地域資源を活かした産業の振興を進めます。

① 成田ブランドの育成・地場産業の振興

本市には、正二郎餅などの伝統工芸品、鉄砲漬などの観光土産、特産品のサツマイモやブランド米などがあります。

その魅力を広く国内外に伝え消費拡大を図るため、人材育成による技術の継承、ブランド認定制度の確立や新たな商品開発などの取り組みを支援していきます。

本市では、市としてのイメージ形成と、その魅力を広く発信するシティプロモーションとして「成田ブランド」の形成に取り組んでおり、従来からの「うなぎ」に加えて「成田ソラあんぱん」など、本市のイメージをPRする商品の開発・販売を進めています。

今後とも、このような取り組みを促進するとともに、市内の特色ある生産物、製造品等を、「成田ブランド」として認定していくなど、本市のプロモーションと地域産業の振興を一体的に進めていきます。

② 6次産業化の推進

本市の農漁業は、季節とともにある食文化、特産品の形成、緑と水の環境を支える貴重な産業として、観光関連産業等との連携を高めながら振興していきます。

特産品の広域流通のみならず、市内の観光施設や商店街や流通業との連携、学校や地域での食育の推進など地産地消の推進、加工やレストラン事業、体験型観光への展開など、6次産業化による高付加価値化を進めます。

4 内発型の商工業振興体制の充実

(1) 総合的な産業振興体制の確立

本市が、既存の資源と有利な立地条件を活かし、市と民間が一体となって本市ならではの競争力ある産業を培っていくため、産業支援体制を充実するとともに、成田市の住みやすさ、働きやすさを国内外にアピールしていきます。

① 産業支援体制の充実

市と商工団体（成田商工会議所、成田市東商工会）の連携・協働体制を基礎に、総合的な産業支援体制を強化し、「成田ブランド」事業の推進、「創業塾」の開催など、地域特性を活かした産業のまちづくりを進めます。

産業の複合化・高度化、共同化、新産業育成などについても、異業種間の交流や産学官連携を促進するなど、様々な機関との連携により、支援体制を強化していきます。

② シティプロモーションの推進

本市では、市のイメージを形成し、産業や地域の魅力を広くアピールするため、ロケ地誘致と本市の観光キャラクター「うなりくん」を活用したシティプロモーション活動を展開しています。

今後とも、インターネットを活用した国内外への情報発信、空港や駅、インターチェンジなどを活用したPRのほか、様々なPRイベントの開催、グルメ開発、ロケ地観光、回遊性の創出、訪日外国人の来成促進に取り組むなど、様々な機会をとらえて地域としての魅力を国内外へ発信するシティプロモーションを総合的に推進し、成田市としてのイメージ形成、競争力アップに努めます。

③ 卸売市場の充実

本市の卸売市場は、生鮮食料品の流通を円滑に行うことで市民の安定した消費生活を支えています。施設の老朽化や耐震化への対応が求められており、また流通事情の変化による取扱量の減少など課題を有しています。

今後の卸売市場のあり方や施設再整備について検討を行い、地産地消のルート確立や農業生産者に対する販路提供、新鮮な食材を提供する常設販売、業務用市の開催、空港の立地を活かした農林水産品の輸出拠点化など、地域経済の活力を高める卸売市場の充実に努めます。

(2) 中小企業の活性化支援

中小企業は地域経済の活性化や雇用の創出に大きな役割を果たしており、本市の商工業の発展にとって中小企業の活性化は重要です。地域経済を支える中小企業の雇用吸収力、事業継続性、事業開拓性を伸ばし、経営者・従業員が安心して活躍できる環境をつくりまします。

① 中小企業の経営支援

中小企業資金融資制度や利子補給制度の運用などを通じて、中小企業の経営安定を支援するとともに、中小企業退職金共済掛金補助金により中小企業の福利厚生や雇用安定に取り組んでまいります。

また、商工団体の支援を通じて、総合相談、各種講習・研修会の開催、同業種間・異業種間の交流、イベント支援や共同事業の推進、各種支援制度の活用などを進めていきます。

② 起業・創業の支援

起業・創業の支援については、商工団体の支援を通じて、相談、研修、各種支援制度の活用を進めるとともに、中小企業資金融資制度の創業支援資金を周知し、利用促進を図るとともに、商工団体等と連携して、資金や経営ノウハウの提供、相談対応などを充実し、就業機会の拡大、新しいビジネスの育成を促進します。

③ 公共調達(官公需)における中小企業の活用

公共調達に関する各種法令等を遵守し、公平性、透明性を確保しながら、公共調達における市内中小企業の活用に努めます。

④ 商工団体の活動に対する支援

商工団体は、中小企業の経営改善や強化支援、金融や経営相談など、商工業振興のための活動のほか、地域の社会的、文化的振興においても大きな役割を果たしています。

成田弦まつりなど、自ら企画提案し地域経済の活性化を図る商工団体の活動を支援していきます。

(3)人材育成と雇用・就業の支援

関係機関と連携して、人材の育成、求人・求職ニーズの円滑なマッチングなど、本市の産業活力を支える人材の確保を進めていきます。また、雇用の安定を図りながら、多様な働き方を選べる環境づくり、ワーク・ライフ・バランス※の推進、障がい者、高齢者、女性、若者などが自分らしい就業を実現していける環境づくりを進めます。

① 人材の育成

就業支援機関や商工団体等と連携して、求職者、従業者などが、必要な技能・技術・知識を獲得していくための機会を確保していきます。

また、学校、事業者、研究機関等と連携して、職業体験やインターンシップなど、青少年や若者のキャリア教育を進めるとともに、高度な知識・技術・技能を持つ専門人材の育成を支援します。

② 雇用・就業の促進

就業支援機関と連携して、市民が自分にあった仕事に就き、雇用・就業を安定的に継続できるような環境づくりを進めます。

県や市、就業支援機関などが行う情報サービスの利用促進、就職説明会・相談会、求人・求職マッチングイベントへの参加促進を進めるとともに、事業者による障がい者雇用の促進、市による障害者優先調達推進法の運用などを進めます。

③ 働きやすい環境づくり

市民のワーク・ライフ・バランスを支える事業者の育児・介護休業制度導入などの取り組みを促進し、また、中小企業の従業員福利厚生など、働く人々の福祉向上に資する取り組みを支援します。

なりた・お仕事ナビ



※ワーク・ライフ・バランス…ワーク(仕事)とライフ(仕事以外の生活)を調和させ、性別・年齢を問わず、誰もが働きやすい 仕組みをつくることである略

第3節 具体的な展開に向けて

各施策は、産業や地域の現場で、有機的に関連づけながら進めていくべき性格をもっています。本市が、立地優位性と豊かな地域環境を産業発展に活かし、市域全体の活性化を実現していくためには、「空港」と「市街地」の関係づくりを基軸に、市全域の事業者、地域、市民が参加・連携していくことが重要です。

東京オリンピックや圏央道開通等は、本市にとって観光客や企業を外から誘致するための大きな要因となるだけでなく、市内各主体の連携を進める機会としても重要です。

産業基軸の形成（概念的な構成として）

○本市商工業は、「成田山・中心市街地」と「成田国際空港・高速道路等」を両輪に、これをつなぐ基軸を形成し、振興の核とします。

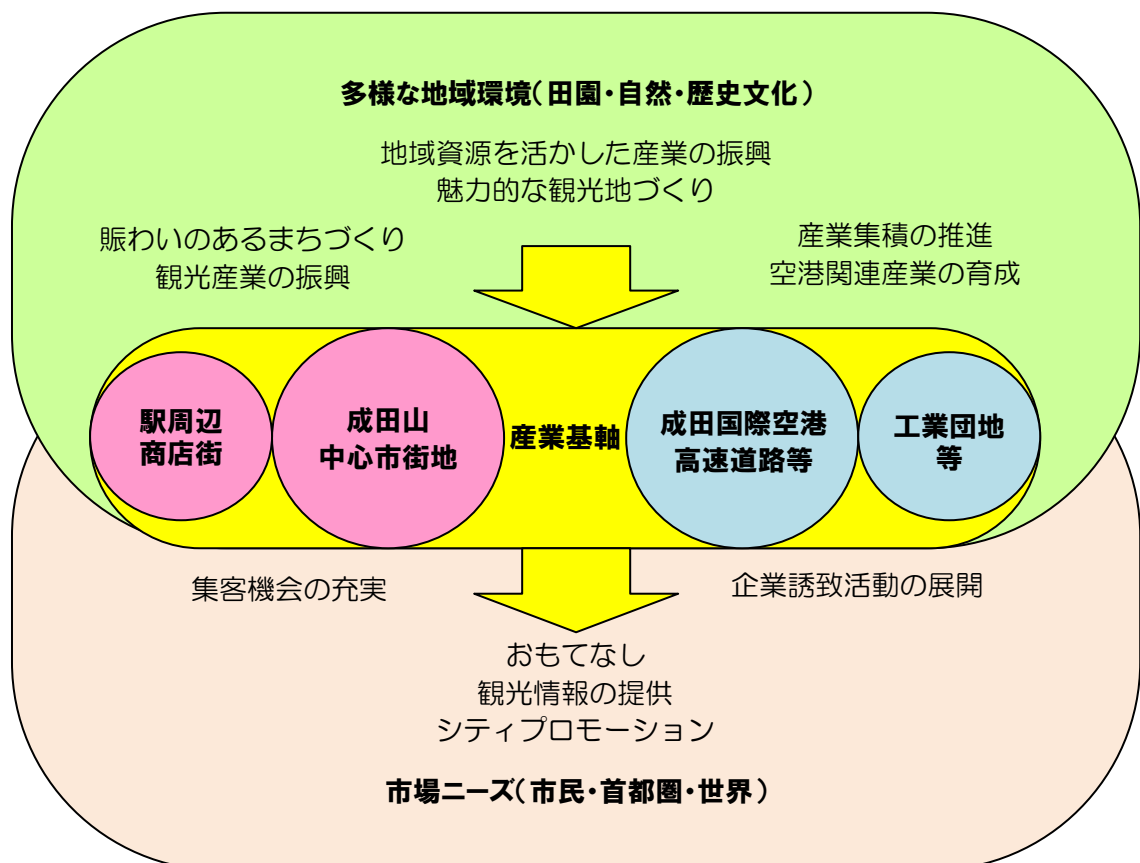
○「駅周辺・商店街」、「工業団地等」をサブ核に、交流人口の集積、産業集積を進めます。

主に市内に向けての展開

○市民定住人口・交流人口の集積に貢献する「賑わいのあるまちづくり・観光産業の振興」、本市ならではの産業集積に貢献する「産業集積の推進・空港関連産業の育成」、それと連携しながら全市域のバランス発展を図るための「魅力的な観光地づくり・地域資源を活かした産業の振興」を進めます。

主に市外に向けての展開

○首都圏、全国、世界に向けて「シティプロモーション・観光情報の提供・おもてなし」を展開し、「集客機会の充実」、「企業誘致活動の展開」を進めます。



◆具体的な展開のポイント

展開のポイント 凡例→ ★すぐに始められること ☆体制をつくり計画的に進めるべきこと ◇ハード整備等の進捗が待たれるもの	対応する施策
主に市内向けての施策展開	
<u>賑わいのあるまちづくり・観光産業の振興</u> ◇☆スマートシティは、観光地、空港・道路・鉄道・運輸業、工業団地との連携も視野に成田らしく ◇医療系大学の立地がポイント（市内介護事業所との連携も） ★住民・従業者・観光客等のニーズ把握がポイント（土日や夜の営業も含め） ☆商店街活性化に、大規模店舗との機能分担もポイント ◇市街地は都市整備との関係が密接	1-2-1 生活支援型産業の振興 1-2-2 文化創造型産業の振興 1-2-3 スマートシティの形成 1-1-2 駅周辺の賑わいの創出 1-1-3 商店街の振興 3-2-1 観光産業の育成 1-1-1 中心市街地の活性化
<u>地域資源を活かした産業の振興・魅力的な観光地づくり</u> ★地域特性を活用しながら磨いていくため、多様な産業、文化団体、地域、市民等との連携を推進（市民の静かな生活や地域環境の保全との共存・調整がポイント） ☆地産地消に貢献する卸売市場の機能充実を検討 ☆観光産業の育成や地域に根ざした流通体系、観光客の回遊性確保には、空港・IC・駅の活用や運輸業との連携がポイント ◇☆医療ビジネス、スポーツツーリズム等を一体とするメディカル&ヘルス産業と、美しい自然や田園環境との連携も検討	3-3-1 成田ブランドの育成・地場産業の振興 3-3-2 6次産業化の推進 4-1-3 卸売市場の充実 3-1-1 観光拠点の整備と回遊性の確保 3-2-2 観光による地域産業の活性化
<u>産業集積の推進・空港関連産業の育成</u> ★空港との連携が必須 ★羽田空港及び周辺地域との機能分担がポイント ◇圏央道開通がポイント ☆産業用地の新規確保、製造業や物流業の高度化への対応がポイント	2-1-2 工業の振興 2-1-4 新産業の育成 2-1-1 国際物流・産業集積基地としての充実 2-2-1 空港関連産業の育成 2-2-2 空港活用の促進
主に市外に向けての施策展開	
<u>集客機会の充実</u> ☆首都圏・県内のコンベンション施設等との差別化がポイント（市の環境、既存施設の活用、産業特性に則ったテーマ開拓等） ★地域のまつりとコンベンションの連携も要検討 ☆企業誘致活動とコンベンション誘致のリンクも鍵 ★市内イベント情報の提供がポイント ★地域のイベントをどこまで観光客に開けるか要検討	3-1-4 集客イベントや集客プログラムの充実 3-2-3 コンベンションの推進
<u>シティプロモーション・観光情報の提供・おもてなし</u> ★成田山新勝寺開基 1080 年祭（H30）、東京オリンピック（H32）に向けて計画的にプロモーション ★プロモーションには、空港・駅・高速 PA 等との連携のほか、ICT を活用したクチコミ的 PR がポイント（取材活動の招致） ★観光協会や市民活動（シティガイド等）との連携「うなりくん」をはじめ、成田自慢を市民と共有することがポイント	4-1-2 シティプロモーションの推進 3-1-6 東京オリンピックに関連した商工業の振興 3-1-5 市ぐるみの「おもてなし」の展開 3-1-2 観光客誘致活動の推進 3-1-3 観光情報の提供
<u>企業誘致活動の展開</u> ★市内の空港関連産業事業書の PR が必要 ★企業ニーズの把握、ニーズのある業界研究等がポイント ☆国内外の空港のある都市との連携も	2-1-3 企業誘致活動等の推進